

「拝啓、誰か助けてください。お願いします誰でもいいから助けて  
ください早く何とかしないと世界が滅びます誰か早くこの原作主j

ピースフルジョッキー飯田

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

物語とは、主人公がいて成立するものである。

物語とは、主人公を中心に構成されており、その世界において、主人公がいなければ解決されない、という展開が当たり前なのである。とどのつまり、誰か助けて。

## 目次

「拝啓、誰か助けてください。お願いします誰でもいいから助けてください早く何とかしないと世界が滅びます誰か早くこの原作主j

1

「拝啓、誰か助けてください。お願いします誰でもいいから助けてください早く何とかしないと世界が滅びます誰か早くこの原作者じ」

突然だが、俺は転生者である。

何の変哲もなく、自転車で華麗に一回転し「あ、死んだ」と同時、頭に衝撃を受けて気づいたらおぎやあしてた。そのくらい、何の変哲もない転生者である。

前世は普通の一般家庭。そんな奴が生まれ変わったところで何も変わらず、普通に保育園に通い、小学校に通って……とまあ、ある程度人間としての普通の人生を歩んできたわけである。

そんなこんなで「頭のいい子ども」ムーブを続けてほめられ奉られうっはうはな幼少時代を過ごす中、小学校で、とある男の子に出会った。

「はじめまして、南雲ハジメです。よ、よろしくお願いします！」

——南雲ハジメという、男の子に。

授業参観で現れるキャラが濃ゆすぎる漫画家の母、ゲーム開発者の父。

そこで、俺は思い出した。というか、察した。前世で読んだ物語。その主人公が、南雲ハジメであったことを。

“ありふれた職業で世界最強”と呼ばれるライトノベル。落ちこぼれ、嫌われ者の少年が、どん底から這い上がり、男の夢という夢を叶え欲しいものを手にする——そんな、シンデレラストーリーを（男だが）。

そのことに気づいた瞬間、脳裏に駆け巡るは未来の展望。

召喚されーの、奈落に落ちてーの、強くなりーの、ハーレム。

巻き込まれーの、魔法使いーの、無双ーの、ハーレム。

まさに、男の夢。

最強、無双、ハーレム、チート。今昔なろうより幾度となく描かれてきた夢物語。

当然俺も、そんな男の夢を目指して、召喚されるであろう未来を夢に描く――

「え、なにそれ怖。近寄らんどこ」

――そんなことはなかったツ!!

いや、だってそうでしょ。

だってー？ 落ちたところで助かるとは限らないでしょー？ 強くなれるとも限らないでしょー？ そもそも死ぬかもしれないんでしょー？ ふざけてんの？

死にたくない。

という至極当たり前のことを念頭に、俺は南雲ハジメと全力で距離をとった。

杞憂かもしれないが、もしもということがある。そんな厄ネタ、誰が近づくか。あいつと関わりを持って召喚に巻き込まれてたまるか。幼馴染とか友達なんてなった日にやアフターで俺編が始まって死ぬ。とんでもねえ。

だが、これだけでは不安である。

当然である。南雲ハジメが主人公の物語。それにはアフターがあるのだ。全世界同時多発テロが起こったり、アメリカでバイオテロが起きたり……テロ起きすぎじゃね？ とにかく！ だから、下手をすれば巻き込まれちまう可能性があっちまうのだ。

だから、鍛えることにした。手取り早く強く強くなる方法として、八重樫道場に通った。なぜか徹底的にぼっこぼこにされて針とか穴抜けを散々させられたけど。

まあ、ともかく。俺は未来に向けて頑張っていたわけである。

死にたくない。ただそれだけのために頑張ってきた。死にたくない

いが故に、なんか関係がありそうなイベントは徹底的に無視してきた！　なんか土下座少年を見かけたとしても徹底的に無視してきた！

余念はない！　余念はない——のに！

原作通りに進めば、幸せになれるはずだったのに——！

俺は、呆然と立ち尽くしていた。

眼前には、食べかけの弁当やら、倒れた椅子が散乱する教室。

どれだけの力が込められていたのだろう。散乱した椅子の一部は脚が曲がっていた。どうやら、必死に叩きつけていたらしい。その力の強さが窺える。

食べかけの弁当は、箸が突き刺さったままのものもあり、まるで、口に入れかけた瞬間に、その先がなくなってしまうような異質さを感じさせた。

まさに、異常。

阿鼻叫喚の野次馬を押し除け、俺は教室から離れた。その手には、バイブレーション機能をフル活用しながらブルブルするスマホが。

その通知欄を見て、俺は空を仰ぎ見——そんな現実逃避をしている暇はないと、すぐさま応答ボタンを押した……

『やあリン元気!?　今さ新しいイベント始まつちやつたんだよ。だから今から家に来てくれない?　流石に片手一騎じゃ人手が足りなくてさ、パソコンもって集合ね!　一応グラボ持ってきてね動画も投稿しないと行けないし、編集は任せてるからいろいろしちやつていいからね!　あ、あと食料と水ね。そろそろ徹夜しないといけないから買い溜めしときたいんだ。お金は後でだから好きなもの買っていいよ。でもカツプ麺はやめてね。あんなのイベントしてる時に食べる暇なんてないから。買ってきてくれるならカ○リーメイトとか一本満足○ーとか片手で食べられるものでお願い、水は軟水で!　じゃ待つてる——』

「てめえ何してんだ南雲アツ!!」

——ああ、どうしてこうなったんだっけ……？

「あゝ……：タンクウ、そこちゃんと守つてよ。そこにいられたら射線に入られちゃうでしょ。何やってんのさ、ちゃんと養成所通った？

n o o b かよ」

「てめえもちゃんと学校通えやあツ！」

「痛ア!？」

薄暗い部屋。ずっとブツブツとパソコンを叩いている南雲に向かって飛び蹴りする。その勢いのまま、光っぱなしのパソコンの電源を強制シャット。

「あゝあゝー！ツツ!? データがあー！ツツ!!」

「うるせえてめえっ！　なんで学校に来てねえんだなめてんのか！」  
「学校へ行くかどうかは僕の勝手だ！　高校に一年くらい行かないからって死にやしないもんね！　なめてるのはどっちだろうね！　ふっふえくん！」

なんだこいつムカつく。

続いてでようとする拳を全力で抑えてアイアンクローで抑えておく。八重樫流で鍛えた握力が火を吹いて、拳の中から悲鳴が鳴り響いた。

……もうお察しであろうが、この引きこもり。こいつが原作主人公、南雲ハジメである。

なぜか関わらないようにしていたはずなのに、あれよあれよと知り合いになり、てんやわんやで腐れ縁になり、ほんやらかんやらでお世話係（不本意）になっちまったわけである。

まあそれはそれ。関わっちまったものは仕方ない。いや、仕方なくない。親が知り合いだったってところで絶望した。うっそだろお前……

ともかく、知り合ったにしてもうまく生きてきたわけだが……な

ぜ、こうなってしまったのだろう。

「それよりもリン。いきなり蹴り込みにくるとはどうゆうー要件？ 僕はコ○ボイの謎を解くのに忙しいんだけど」

なぜか！ 高一になりいきなり引きこもり化。漫画アシ、ゲーム開発、ラノベ執筆を手がけるハイスペックヒキニートに進化してしまった。あと買ってきてやったカロ○ーメイト貪りながら手慰みにクソゲーをやるな。

「南雲、お前学校来いって言ったよな？」

「言ってたね。フルーツ味いる？」

「いらねえ。なんで来てねえんだ。俺はとにかく、学校に来とけって言ったよな？」

「え、嫌だけど」

「何でだよっ！」

「いや、面倒くさい」

「お、まっ……」

「え、嫌だつて学園から妬まれてる上に嫌われてて、野獣みたいな奴らに追われるし、家にいたらリンがお世話してくれるのにどうして出る必要が？」

「完全にヒキニートの発想じゃねえか」

「うるせえっ！」

「なんで!？」

「黙って僕のカロリーメイ○フルーツ味を、食えッ！」

「あつぶねえ!？」

唐突にフェンシングが如く繰り出された刺突(○ロリーメイト)を全力で回避。脈絡が無さすぎて、わけがわからん。

本当に、もうっ……どうしてこう……! !

完全に引きこもり属性(＋○チガイ)がついてしまった原作主人公に、俺は絶望する。

そもそも、俺が南雲を学校へ行かせようとしていたのにも理由があるわけで。

南雲ハジメは主人公である。それはつまり、南雲ハジメを中心に物



語が展開されていく。

それはヒロインとの出会い然り、戦い然り。さまざまな出会いと別れが主人公を中心に巻き起こる。それが物語のど定番である。

何が言いたかった？

世界が滅ぶんだよ……！

原作では、ラスボスが地球で遊ぼう（侵略

としていたことが明かされていた。つまり、原作通り南雲がラスボスを倒せなければ……つまり、そういうことである。

そうなる可能性は大いにあるわけで、さすがに高一で引きこもり始めてこりゃヤベエってなって幾星霜。ついに召喚が始まっちゃったわけ……

あ、オワタ。

そんなわけで、南雲に殴り込みに来たわけである。理由はない。八つ当たりです……（半泣き）

そんな俺を知ってか知らずか、南雲はパソコンを立ち上げ直してゲームを開いていた。

「そんなことよりも、早く手伝って。今回のイベントやばいんだ。復刻イベントでさあ、急がないと収穫され尽くしちゃう。知ってる？

毎秒44——」

——拜啓、トータスに召喚された皆様。そちらの天気は如何ですか？ こちらは快晴です。こちらのごことはお気になさらず。

あなたたちもいろいろとあるかもしれないかもしれませんが、こちらの世界とどちらが先に滅びるかのレースが始まってしまいました。

僭越ながら、ご自愛させていたきたいと思います。

P.S. 助けて。俺ごと世界が滅ぶ。